

(中間報告案)

高岡市配偶者等からの暴力防止及び被害者支援に関する

基本計画 (DV 対策基本計画) (仮称)

～ 暴力を許さない社会を目指して ～

<概 要>

* 配偶者等からの暴力

配偶者暴力防止法が定める「配偶者からの暴力」とは、配偶者、事実上婚姻関係と同様な事情のある者及び暴力を受けた後に離婚をし、配偶者であったものからの暴力を言い、恋人や交際相手の暴力は含みませんが、この計画においては、配偶者に加え、恋人や交際相手など配偶者以外の親密なパートナーからの暴力も含め、「配偶者等からの暴力」とします。

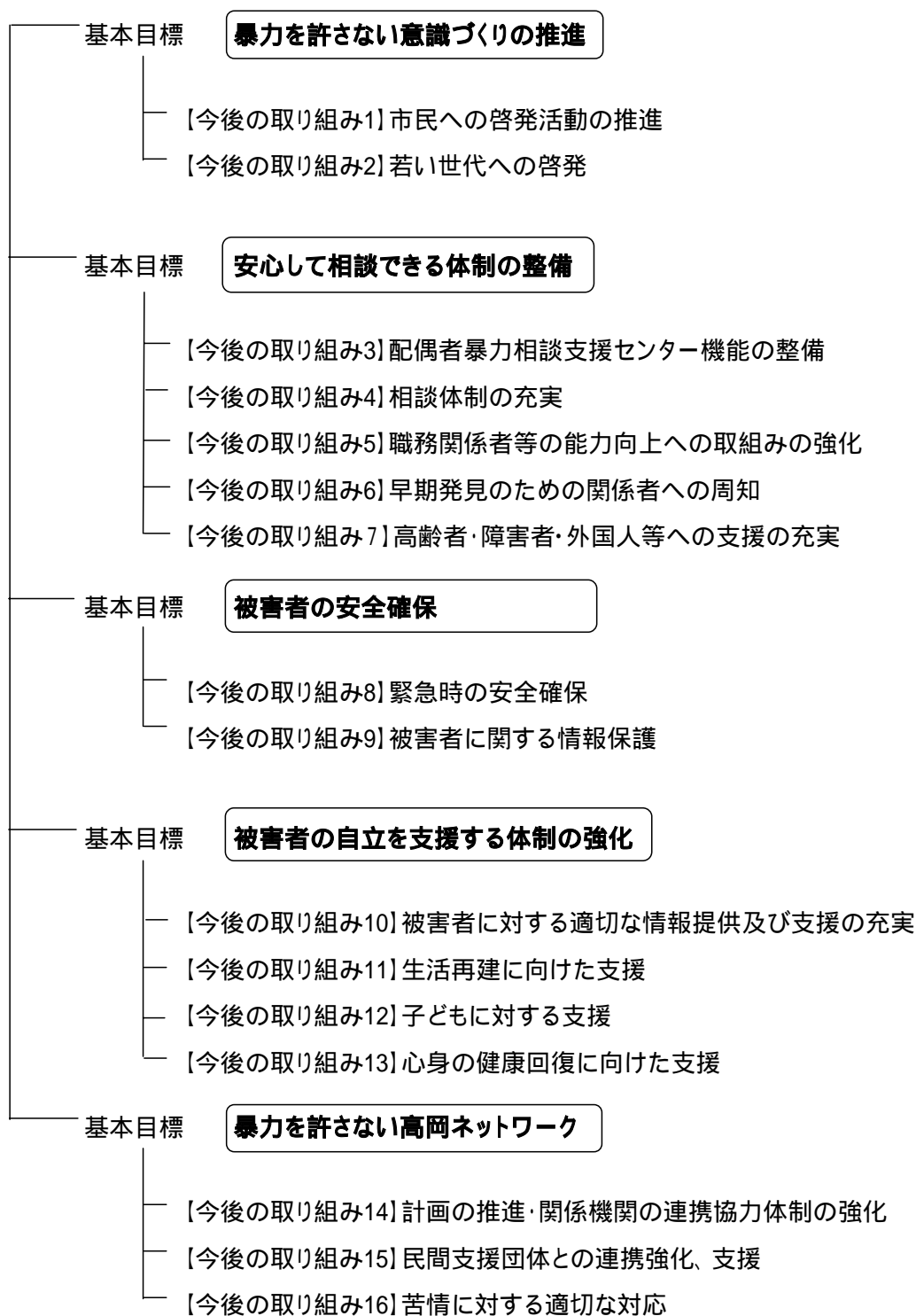
また、ドメスティック・バイオレンス (Domestic Violence , DV) は直訳すると、「家庭内暴力」となりますが、この計画においては、配偶者等からの身体に対する暴力又は、これに準ずる心身に有害な影響を及ぼす精神的暴力や性的暴力、経済的暴力などを表すものとしします。

2011 (平成 23) 年 12 月
高岡市男女平等推進市民委員会

第3章 DV対策の内容

1 施策の体系

高岡市DV対策基本計画（仮称）施策の体系



は、重点的な取り組み

第1章 基本計画の策定にあたって

1 策定の趣旨

配偶者等からの暴力（ドメスティック・バイオレンス＝以下「DV」という。）は犯罪となる行為を含む重大な人権侵害であり、深刻な社会問題になっている。

すべての人が安全で安心して暮らせる社会を実現するためには、あらゆる暴力を防止し、暴力を許さない社会を目指す絶え間ない取り組みが必要である。

このため、高岡市は、被害者を早期発見し、被害者の自立を支援するとともに、市民一人ひとりが、DVは身近にある重大な人権侵害であることを理解し、DVを容認しない社会の実現に向け、関係施策を総合的・体系的に取り組んでいくため、高岡市DV対策基本計画（仮称）を策定するもの。

2 背景

- ・国 平成13年DV防止法制定、平成19年改正で市町村基本計画の策定と配偶者暴力相談支援センターの設置が努力義務となる。
- ・県 平成18年3月DV対策基本計画策定、平成21年改訂。平成14年度女性相談センターに配偶者暴力相談支援センター機能を持たせる。
- ・高岡市 平成17年11月制定 男女平等推進条例第7条
平成20年1月策定 男女平等推進プラン重点課題9「あらゆる暴力的行為や虐待の根絶」に位置づける。

3 計画の位置付け

- ・DV防止法第2条の3第3項に基づく。
- ・高岡市第2次総合計画・男女平等推進プランとの整合性と連携を図る。

4 基本的な考え方

- ・DVはどんな理由があっても、決して許されないという認識にたつこと
- ・被害者の立場に立った切れ目のない支援に努めること
- ・本市の課題に即した取り組みの推進
- ・国・県、市町村等の関係機関及び民間団体等との連携強化を図ること

5 計画の期間 平成24年4月から平成29年3月までの5年間

第2章 DVの現状と課題

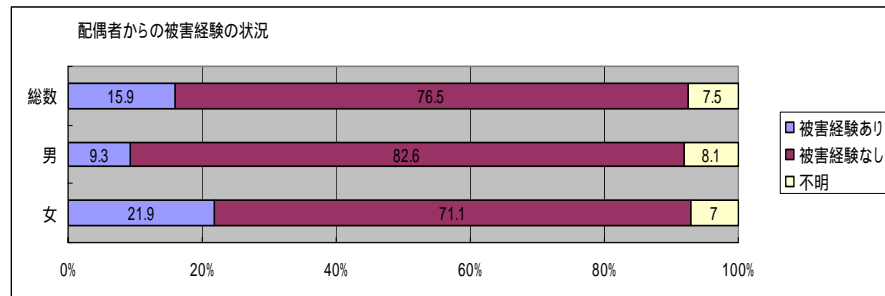
1 DV被害の現状

高岡市男女平等推進センター相談室の相談件数

	H16	H18	H20	H22
相談件数 (DV相談)	669件 (90件)	1,590件 (373件)	2,531件 (647件)	2,888件 (1,157件)

DV相談については、2004（平成16）年度が90件から、2010（平成22）年度は1,157件と、10倍以上に増加した。

配偶者からの被害状況「平成 19 年度富山県男女間における暴力に関する調査」
過去において、DV被害を経験した人は、全体で、15.9%、男 9.3%、女 21.9%
となっている。



2 DV施策の現状

本市では、高岡市男女平等推進プランの重点課題 9「あらゆる暴力的行為や虐待の根絶」として位置付け、DV予防啓発講座の開催やDV被害者の相談等、DVの予防啓発や被害者支援に取り組んでいる。

3 重点的な取り組みについて

本市のDV対策では、被害者支援、そして、被害者をつくらないことが重要と考える。

被害者をつくらない、予防は、若年層に対し、配偶者や交際相手からの暴力の問題について考える機会を提供することが有用であることから、教育や啓発に取り組む。

被害者支援には、まず、早期発見、そして、相談窓口に繋ぐことである。被害者が相談に行きやすい環境づくり、市民からの通報、関係窓口の連携強化を図るため、男女平等推進センターに配偶者暴力相談支援センター機能を持たせ、DV被害者支援の充実を図る。

また、これらのDV対策の取り組みは、関係機関の連携はもとより、民間支援団体の柔軟な活動が不可欠であり、それぞれの強みを生かしながら、ネットワークの強化を図る。

第3章 DV対策の内容

- 1 施策の体系……………表紙裏面
- 2 取り組みの内容 ……は重点的な取り組み

基本目標 暴力を許さない意識づくりの推進

さまざまな機会を通して、市民一人ひとりにDVは明らかな人権侵害であることの認識や理解が深まるように活動を推進する。また、若い世代の男女間での「デートDV」の予防には、考える機会が有用であることから、予防・啓発プログラムの開発など若い世代への啓発事業に取り組む。

取り組みの方向 1 市民への啓発活動の推進

取り組みの方向 2 若い世代への啓発

基本目標 安心して相談できる体制の整備

D V相談の中核施設として男女平等推進センターに配偶者暴力相談支援センター機能を持たせるとともに、被害者が安心して相談できるように相談体制の充実を図る。また、早期発見のため、地域での支援者に通報の重要性やD Vの理解を深めるための出前講座を実施する。

- 取り組みの方向 3 配偶者暴力相談支援センター機能の整備
- 取り組みの方向 4 相談体制の充実
- 取り組みの方向 5 職務関係者等の能力向上への取り組み強化
- 取り組みの方向 6 早期発見のための関係者への周知
- 取り組みの方向 7 高齢者・障害者・外国人等への支援の充実

基本目標 被害者の安全の確保

関係機関との連携や必要な情報提供により、被害者の安全確保に努めていきます。また、住民基本台帳の閲覧制限など、支援措置に関して、関係各課が連携して取り組んでいきます。

- 取り組みの方向 8 緊急時の安全確保
- 取り組みの方向 9 被害者に関する情報保護

基本目標 被害者の自立を支援する体制の強化

被害者が自立した生活ができるよう、住宅の確保、経済的支援の制度について、関係課・関係機関の連携を図りながら、適切な情報提供に努める。

また、被害者の心理的被害の回復には時間がかかるので、カウンセリングなどの専門相談や自助グループの活動支援に努める。

- 取り組みの方向 10 被害者に対する適切な情報提供及び支援の充実
- 取り組みの方向 11 生活再建にむけた支援
- 取り組みの方向 12 子どもに対する支援
- 取り組みの方向 13 心身の健康回復に向けた支援

基本目標 暴力を許さない高岡ネットワーク

被害者の安全確保や自立生活の確保などに向け、県や警察などの関係機関との連携を図るとともに、被害者支援に携わる民間支援団体との連携や柔軟な対応を生かすための支援に取り組む。

- 取り組みの方向 14 計画の推進・関係機関の連携協力体制の強化
- 取り組みの方向 15 民間支援団体との連携強化、支援
- 取り組みの方向 16 苦情に対する適切な対応